
地球限定。

遊庵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地球限定。

【Nコード】

N8599Z

【作者名】

遊庵

【あらすじ】

騎士団でもトップクラスの剣さばきをほこり、魔術師団長にも劣らない魔力をもち、将来を有望視されていた俺、ライン・S・ツヴァイクが。

寝て起きたら地球とかいう魔力も魔物も魔王も戦いもない世界にきて、右も左も文化も言語もわからない状態でほっぽりだされた。

なるほど、これからここで生きるといふ、我等が精霊のお告げだな
ーっ、

何故だああーっ！！

プロローグ

地球。

魔力にみなぎる魔物、

闇なる存在…すなわち魔王もいなければ

光なる存在…すなわち勇者や、騎士団、

宮廷魔術師もない。

この世界で、俺は生きるのか？

右も左も、言語も文化も、何もわからない状態で、この俺を異世界にほっぽりだしたというのか？

視界いっぱい広がる灰色の道路。

みっちりと隙間なく建てられている小さな城というにも、小汚らしさのにじみでる建造物。

警戒の色が微塵もない、鎧も着ない奇妙な格好をした人々。

視覚、聴覚、味覚、感覚、嗅覚。

全ての感覚が違うこの世界に、たった一人。

今初めて、一介の騎士である俺は神たる精霊たちを呪った。

俺と美人。

だりいー。家帰るのめんどくせーなあ…
そんな事を思いながら、俺「柳 源馬」はとぼとぼと駅から家の間を歩いてた。

一度も染めた事のない黒髪が夜闇に溶け込む。見よこのキューティクル…って見えないか。

駅から家までの道のりは、蛍光灯もないせいか異常に暗い。多分、人がいても気づかないであろう。

そんな道を通れるのは、俺だからこそだ。
空手黒帯、全国大会優勝経験あり。剣道も同じく優勝したこともある。

…今やってねーけど。

昔の優越に浸りながら歩いてると、前方に人が見えた。

こっ見えても視力はいい。

この暗い道を通れる理由だ。

「…え？」

思わず声が出てしまった。
向こうも驚いてるようだ。

無理もない。

その驚いた双眸から覗く瞳の色は、思わず見惚れてしまいそうな真紅。
人間離れた美貌に、海を思わせる髪色は毛先に向かってグラデー
ションがかっている。

「……こんなきれいな女（男？）を見て誰がおどろかずにいられる
か。

そりゃ、声も出るだろ？

「……こっちみてるし。」

「……話しかけてみようかな。」

いやいや、誤解するなよ？決して声かけて仲良くなって美人とラブ
ラ（以下略）フラグを立てようとか、そういうんじゃないかね？

「……貴殿」

「うおおっ?!」

いきなり話しかけられて変な声が出てしまった。

それもそうだ。話しかけてきているのはあの美人。

「……変な喋り方する人だな。」

でも間近でみても、やっぱり綺麗。

「おどろかせてしまったようだな。すまない。」

「あ、いえ…:すいません。」

何で謝ってんだよ俺！

一人ツッコミをいれつつ、「俺に何の用ですか?」と聞いてみる。

美人は、バツが悪そうに「あー…それが、その…」としばらくじどろもどろしてたが、やがて

「…貴殿は…一人暮らしか？」

「え？」

「その、今夜は一人か？」

少し照れたように、美人は目線をあちこちに向けながら言った。

「…お。」

「…今夜は…家に俺一人、です。」

「…まさか。」

「…そうか。なら…今夜…」

「我を、貴殿の所に泊めてくれ」

「…フラグ立ったああ?!」

俺とイケメン。

何でこうなったんだ。

電気ポッドでお湯を沸かしながら思考を巡らせる。

結局あのあと、美人は家に入れてあげた。

あの時は暗がりでも美人としか認識してなかったが、明かりをつけて
見てみると色々困った。

まず、服装。

西洋の王宮で見られるような騎士の服のような物をきていて、なんと
剣を二本も持っていた。

俺が銃刀法違反で捕まったらどーすんだよ！と心配になったので、
丁重に取り上げて（？）押入れにしまったが…

残念すぎる事が起きた。

服装なんかどうでもよくなるくらいに。

そう、この美人。

——男でした。

明るみの中で見ても

整いすぎた顔立ちも通った鼻筋も小さな顔も切れ長の目も長い色素

の薄いまつげも形の良い唇も海のようなきれいすぎる髪も、さつきとなんら変わらない。

が、身体は違う。

痩身ながらもしまった筋肉は服装の上からも十分にわかる。

さらに長身。俺とかわんないから180はある。

何より。襟元の空いた服から除く喉仏や鎖骨が、彼が男だと象徴してた。

声も、さつきとなんか違うし。

俺が美人と思いついてたから、ビジョンでもかけられてたのか？

とにかくアレだ。

総称してイケメン。

つまり今の状況は、

人間離れた美貌を持つ男と俺の二人キリの空間。

さらに、今日このイケメンはここに泊まる。

が、俺の部屋にはベッドが一つ。

一緒に寝る。

——いくらイケメンだからって、俺はそっちの趣味ねーぞ！

俺の心の叫びを表すように、ヤカンが汽笛をならした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8599z/>

地球限定。

2011年12月28日01時54分発行